

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: The prevalence and risk factors for postpartum depression symptoms of fathers at one and 6 months postpartum: an adjunct study of the Japan Environment & Children's Study.

和文タイトル: 父親の産後うつについて、産後1か月と6ヶ月における頻度とリスク要因;エコチル調査宮城ユニットセンター追加調査より

ユニットセンター(UC)等名: 宮城UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: The Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicine

年: 2020 月: 8 巻: 33(16) 頁: 2797-2804

筆頭著者名: 西郡 秀和

所属UC名: 宮城UC

目的:

父親の産後うつとそのリスク因子を産後1か月と6ヶ月で検討した。

方法:

エコチル調査に参加した父親を対象に、産後うつについて、産後1か月と6ヶ月に調査を行った。産後うつのスクリーニング方法として、エジンバラ質問票を用い、8点以上を陽性とした。

結果:

産後1か月 1023 名、産後6ヶ月 1330 名の父親を対象に検討を行った。産後1か月の産後うつの頻度は11.2%であり、そのリスク要因は妊娠中の精神的ジストレス、低収入、子どもの病気などであった。産後6か月の産後うつの頻度は12.0%であり、そのリスク要因は妊娠中の精神的ジストレス、無職、母親(パートナー)の産後うつであった。

考察:(研究の限界を含める)

近年、日本において周産期メンタルヘルスが注目されているが、父親に関する研究は少ない。本調査は、父親の産後うつを、産後1か月と産後6ヶ月に、妊娠中の精神状態も含めて継続的に検討した、日本では初めての報告である。本調査の主な限界としては、調査に参加していただいた父親はエコチル調査に協力的な方々である、したがって、参加者のバイアスがある。

結論:

産後1か月と6ヶ月における父親の産後うつの頻度とリスク要因が明らかになった。母親だけでなく、父親の周産期メンタルヘルスについても着目し、そのケアが必要である。